

二葉の里歴史の散歩道：おすすめスポット

二葉の里散歩道のすべてのスポットにはそれぞれ独自の物語があり、固有の目的があります。時間が許すなら、すべてのスポットを訪れることをお勧めします。しかしながら、広島駅を起点にする約 2 時間の巡回ルートには、見逃せない重要な神社仏閣がいくつか含まれています。

駅から最も近い場所にある広島東照宮は、徳川家康（1543–1616）を祀る日本の多くの神社の一つです。家康は権勢を振るった将軍で、江戸（現在の東京）の都市を自身の権力の中心地に据えました。1648 年に創建されたこの神社には、今も創建当初の人目を引く朱塗りの門が残っています。本殿や拝殿は原爆によって焼失し後に再建されましたが、この門は瓦屋根のおかげで火災から守られました。ひさしのすぐ下の精巧な鳥の彫刻を見つけてみてください。これは東アジアの神秘的な不死鳥である鳳凰を彫ったものです。本殿の背後には金光稲荷神社があり、モチノキやカシの樹々に取り囲まれています。訪れた人は好んでモチノキの大きな葉をもぎ取りますが、かつてこれは絵葉書にも使用されました。稲荷神社の脇には 100 基の朱色の鳥居に囲まれた 500 段の石階段があり、上っていくと二葉山平和塔に至ります。400 メートルのこの登りは約 25 分かかります。

尾長天満宮は広島東照宮から歩いてすぐのところであり、この山の最古のスポットの一つと信じられています。伝説によると、小さな礼拝所がこの地に最初に建てられたのは西暦 901 年のことで、正式な記録として残っているこの神社についての最古の年代となると西暦 1640 年です。現在の建物は明治時代（1868～1912 年）のもので、すべての建物が原爆の惨禍を乗り越えて存続しています。この神社は神道の学問の神である天神を祀っており、神社の入口に設置されている大きな雄牛はその神のシンボルです。

國前寺は広島を中心部にあるとうかさん圓隆寺と関係の深い仏教寺院です。國前寺の本堂は 1671 年にこの地の支配者である浅野家の菩提寺として建てられたもので、重要文化財に指定されています。建物の屋根は原爆で吹き飛ばされ、窓のガラス片は今も建物内の木の柱に刺さったままです。しかし、主要な構造は原爆の被害をくぐり抜けて存続し、屋根は残った屋根瓦の一部を使用して注意深く再建されました。最後となるお勧めスポットは、人目を引く金色の観音像のある聖光寺です。観音は仏教の神格で、慈悲の菩薩です。この寺院は広島歴史と深くつながっており、毛利輝元（1553–1625）が初めてこの都市の名称を定めた場所と考えられています。この寺院には、亡き主君浅野長矩（1667–1701）の仇討ちをした有名な 47 人の侍ないし浪人のうち 2 人の墓もあります。